

Press Release

報道関係者各位（エネルギー、環境問題、証券市場、ベンチャー企業ご担当者様）

2020年4月16日

APB、日産自動車および三洋化成工業から全樹脂電池の要素技術についてのライセンスを取得

次世代型リチウムイオン電池「全樹脂電池」の開発を行う APB 株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役：堀江英明、以下 APB）は、このたび、日産自動車株式会社（本社：神奈川県横浜市、代表執行役社長兼最高経営責任者：内田誠、以下「日産」）、および三洋化成工業株式会社（本社：京都府京都市、代表取締役社長：安藤孝夫、以下「三洋化成」）それぞれと、両社が保有する全樹脂電池の要素技術に関する特許およびノウハウについて、実施許諾契約を締結しました。

今回ライセンスを受ける全樹脂電池の要素技術（以下、「本ライセンス技術」）は、APB の現代表取締役である堀江英明が 1990 年代より構想し、日産および三洋化成が 2012 年より共同で研究開発を行ってきました。全樹脂電池は、活物質に樹脂被覆を行い、樹脂集電体に塗布をすることで電極を形成しています。このような独自の製造プロセスにより、従来のリチウムイオン電池よりも工程を短縮することで、製造コスト・リードタイムの削減を実現するとともに、これまでにない高い異常時信頼性とエネルギー密度を実現しています。部品点数が少なく済むバイポーラ積層型で、樹脂で構成しているため、電極の厚膜化が容易に行え、セルの大型化が可能で形状自由度が高いことも特長であり、リチウムイオン電池理想の構造ともいえます。

本契約締結により、APB は日本国内外における自動車用途を除く全樹脂電池の開発、製造及び販売の権利を取得します。APB は、全樹脂電池の製造及び販売を行う世界初のスタートアップとして、日産および三洋化成によって研究開発されてきた全樹脂電池技術の事業化を加速させていきます。今後も、自らが保有する全樹脂電池の知見や本ライセンス技術のみならず、リチウムイオン電池に関する技術や知見を保有する各分野のパートナーと協働して、商業化を進めることで、電池産業におけるイノベーション創出に貢献してまいります。

【APB 株式会社 代表取締役 堀江英明によるコメント】

今回のライセンス契約の締結により、世界初の電池デザインである全樹脂電池の根幹となる革新的な技術群を得ることができ、いよいよ本格的な生産に向けた基盤が整うことを大変喜ばしく思います。本技術の社会実装に向け、一層身を引き締めて挑戦を続けていきたいと考えます。

【APB 株式会社 会社概要】

日産自動車の電気自動車である『リーフ』のリチウムイオン電池開発の主導的立場を担った堀江英明により 2018 年 10 月に設立。次世代型リチウムイオン電池である全樹脂電池の量産化を目指す。

設立 : 2018 年 10 月

代表者 : 堀江 英明

事業内容 : リチウムイオン電池の研究開発・製造・販売、コンサルタント業務等

所在地 : 東京都千代田区神田須田町 1 丁目 3 番地 9 P M O 神田万世橋 3 階

【本件問い合わせ先】

APB 株式会社 コンタクトアドレス : contact@apb.co.jp